

# 栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

令和3(2021)年5月(週報第 18 週～第 21 週(5/3～5/30))集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

## 1 感染症解析情報 {5月は4週間、4月は5週間、前年同期は5週間での比較となります。}

### (1)概況

ア. 5月の報告数は次のとおりです。全数(1～5類等)把握疾病は、**954 件**(4月 **905 件**)でした。定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は **913 件**(定点あたり **4.93 件/週**)であり、4月の **1,020 件**(定点あたり **4.63 件/週**)と比較し、週あたり **1.06 倍**とほぼ同様の水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較 (週あたり比)	前年同期との比較 (週あたり比)
感染性胃腸炎	<b>466 件</b> (週あたり平均 116.50 件)	↑ <b>(1.17 倍)</b> 前月は 498 件 (週あたり平均 99.60 件)	↑ <b>(4.62 倍)</b> * 前年同月 126 件 (週あたり平均 25.20 件)
RSウイルス感染症	<b>221 件</b> (週あたり平均 55.25 件)	↑ <b>(1.40 倍)</b> 前月は 198 件 (週あたり平均 39.60 件)	↑ <b>(276.25 倍)</b> * 前年同月 1 件 (週あたり平均 0.20 件)

- ① **感染性胃腸炎**は、前月に比べ報告数が 1.17 倍とやや高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 4.62 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。
- ② **RS ウイルス感染症**は、前月に比べ報告数が 1.40 倍とかなり高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 276.25 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、大幅に高い水準で推移しています。

### (2)全数(1～5類)把握疾病情報(全国)

ア. 1類、2類、3類疾病及び新型インフルエンザ等感染症

結核 1,004 件(4月 1,511 件)、腸管出血性大腸菌感染症 158 件(4月 126 件)、新型コロナウイルス感染症 139,199 件(4月 134,086 件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4類・5類(上位 6 疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	425	638
2	侵襲性肺炎球菌感染症	138	170
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	117	153
4	レジオネラ症	95	98
5	後天性免疫不全症候群	57	99
6	百日咳	38	50

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計 954 件)

結核 18 件、新型コロナウイルス感染症 923 件、レジオネラ症 3 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2 件、侵襲性肺炎球菌感染症 2 件、梅毒 6 件

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。

## 2 疾病の予防解説

(1)RS ウイルス感染症の解説です。

RS ウイルス感染症は5類感染症定点把握疾病です。5月23日現在、本県を含め全国の多くの地域で報告数が増加しています。2019年以前は、春季は流行の時期ではありませんでしたが、2020年以降、流行の傾向が以前と異なっており、注意が必要です。

疾病名	原因と潜伏期間	症状	予防対策
RS ウイルス感染症	RS ウイルス 2～8日間	発熱、鼻汁などの上気道炎症状が数日続き、その後、下気道炎症状が出現し、場合によっては、細気管支炎、肺炎へと進展していきます。何度も感染と発病を繰り返しますが、乳児の初感染時は、下気道症状を起こす危険性が高いです。生後1歳までに半数以上が、3歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに1度は感染するとされています。	子どもが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒しましょう。流水・石鹸による手洗いやアルコール製剤による手指消毒が効果的です。症状が出たら咳エチケットを心がけ、マスクを着用しましょう。

(2)夏季に多く発生する感染症（咽頭結膜熱（プール熱）、ヘルパンギーナ、手足口病）の解説です。

いずれも5類感染症定点把握疾病です。夏季は暑さのため体力を消耗しやすく、特に、乳幼児や基礎疾患を持つ高齢者などは、重症化することもありますので注意が必要です。

疾病名	原因と潜伏期間	症状	予防対策
咽頭結膜熱（プール熱）	アデノウイルス 5～7日間	発熱、頭痛、食欲不振、全身のだるさ、のどの痛み、結膜炎を伴う症状が3～5日間続きます。基礎疾患がある方、乳幼児、高齢者では重篤化することがあります。	手洗いやうがいを励行してください。プールの前後には、シャワー、うがいをきちんと行い、感染者との密接な接触（タオル・ハンカチの貸し借りなど）は避けてください。
ヘルパンギーナ	コクサッキーAウイルスなど 2～4日間	突然38～40℃の高熱が1～3日続き、のどの痛みが現れ、口の中に小さな水ぶくれができ、ただれて痛みをとまいません。水分が摂れず脱水症になることがあります。ごくまれに髄膜炎や心筋炎などを合併することもあります。	手洗いやうがいを励行してください。症状が消失した後（4週間程度）も、便の中にウイルスが排泄されますので、排便やおむつ交換後の手洗いを徹底して行ってください。感染者との密接な接触（タオル・ハンカチの貸し借りなど）は避けてください。
手足口病	コクサッキーAウイルスなど 3～5日間	手・足・口の中に水疱性の発しんができ、発熱をとまなう場合もあります。ごくまれに髄膜炎や脳炎などを合併することもあります。	手洗いを励行してください。症状が消失した後（4週間程度）も、便の中にウイルスが排泄されますので、排便やおむつ交換後の手洗いを徹底して行ってください。

（疾病の予防解説 参考）国立感染症研究所 ホームページ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases.html>  
厚生労働省 ホームページ <https://www.mhlw.go.jp/>

## 3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、5月に県内で発生した警報および注意報はありませんでした。

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位1%以内）に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです